平成 30 年 2 月 18 日（日）協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、ＮＰＯ・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる平成 29 年度報告会を開催しました。

１　日時・場所

●平成 30 年 2 月 18 日（日）　午後 1 時 30 分～5 時 00 分

●江別市民活動センター・あい（江別市野幌町 10 番地の 1　イオンタウン江別 2 階）

２　プログラム

●協働のまちづくり活動支援事業の事例報告

〇報告団体（報告順）※カッコ内は連携団体

①北海道サブカル EXPO 実行委員会

②江別越後会

③木製戦闘機キ 106 を語る会

④メディネット江別（江別観光ボランティアガイド）

⑤フォーラム野幌の森（(財)日本野鳥の会江別支部）

⑥子育て支援ワーカーズ・きらきら（新栄自治会）

⑦江別創造舎

⑧のっぽろ七丁目放送局（江別越後会）

⑨生活クラブ江別（江別子どもの未来を考える会）

●事業報告会コメンテーター（左から、内田氏、阿部氏、星氏）

内田　司　氏（札幌学院大学人文学部人間科学科　教授）

阿部　実　氏（江別市自治会連絡協議会　会長）

星　優子　氏（日本リサイクルネットワーク・えべつ　代表）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

①【北海道サブカル EXPO 実行委員会】
「2017 北海道サブカル EXPO -#えべフェス 02-」

発表者:本イベントを昨年の 9 月 30 日の 11 時から 19 時まで、野幌公民館周辺などで開催しました。今年は酪農学園大学の方が 1 人当団体に加盟し、代表 1 名、メンバー6 名に増えました。その他に行政手続きのために外部委託としてお願いしている会社があります。音響は昨年度、酪農学園大学のサークルにお願いしていましたが、今年は他のイベントがあったため、お願いしておりません。その他に当日ボランティアスタッフをお願いしています。開催に向けては、かわなか公園・湯川公園の利用届を都市建設課公園係に提出し、屯田兵資料館の利用届を郷土資料館に提出しました。またコスプレした人が 12 号線や跨線橋を利用すると考え、北海道開発局、江別警察署にも資料を提出し、江別市には後援依頼書類を提出しました。

学生への協力のお願いとして、酪農学園大学の漫画倶楽部にチラシとイラストの依頼と当日のイラスト展示依頼をお願いしました。ジモ×ガク学生地域定着広域推進連携協議会には、当日の設営とボランティアをお願いしました。

PR の為のチラシ・のぼりの作成、その他に PA スピーカーやトランシーバーを購入するため、支援事業の補助金を含めて利用させていただきました。

イベントの効果として、北海道では珍しい 3D の映像を使ったライブを開催したり、アーティストさんのライブを開催したり、周辺でコスプレして歩いたりという内容で行い、全体参加人数が 1,200 名と昨年度よりも多くの来場者がありました。その中で、有料のホールと更衣室の利用者は 447 名でした。今年度は、中学校の文化祭と日程が重なったこともあり、昨年度より江別市民の子ども連れの参加者が減少しましたが、その代わりに市外からの参加者が多かったと見受けられ、まちの活性化のためになったのではないかと思っています。

事業目的を達成出来たかについては、来場者の増加や、ジモ×ガクのご協力により、学生のイベント参加協力を得たこと、団体に興味を持った方が 1 人入会したことが挙げられます。
反省点としては、他の団体を巻き込む取り組みについて、イベント本体の土台がまだ不完全であり、どのような形でご協力いただけるかを考えていくことが今後の課題となります。

参加人数については、1 回目が 78 名。2 回目が 300 名。3 回目が 750 名。そして今回が 1,200 名。このように増加しており、おそらく来年も増えると予想しています。

広告費として、東京タワーの企業様から 10 万円をいただいたことにより増加しており、その分、今後、毎年使用する予定のスピーカー、トランシーバーを購入させていただきました。

今後の継続性については、3 月 31 日に江別市コスプレミュージックパーティーを開催させていただく予定で、えべフェスについても秋にまた開催できるように検討しているところです。他にも新札幌の方からも開催してほしいという声を頂いています。グッズや CD も制作しており、これらも

イベントで販売する予定です。次年度の協働のまちづくり活動支援事業への申請については、今後検討させていただく予定です。

内田：3 点ほど質問させていただきます。活動が順調に発展しており、大学生もボランティアとして巻き込んで、協働のまちづくりとの形として発展していると思いながら聞かせていただきました。1 点目として 1,000 名を超えるような規模になっており、新たな課題も出てきたかと思います。報告書の中で駐車場の問題等を触れられていたと思いますが、規模が大きくなったことで浮上してきた課題と、それに対してこれからどのように対応しようとしているのか、その点について 1 点お聞かせ下さい。2 点目として、来年度は来場者がもう少し増えるというのではないかと発表していましたが、この事業の反響について感じている事をお聞かせ下さい。3 点目として、今後の連携の課題を挙げていましたが、新札幌からもオファーがあるなど、規模が大きくなってきて、ある程度社会的に知られてくると、今後も様々なオファーが来るかもしれませんし、行政の方々もかなり注目して期待しているのではないかと思います。今後江別市とは、どのような形で協力関係を続けていただけるか、規模が大きくなってきた中での課題解決を、後援を超えた行政の支援が必要であると感じましたので、どのように考えられているかお聞きしたと思います。

発表者：今回 1,000 名以上の参加があり、イオンタウン江別に車を停める方がいるなど、駐車場の問題が確かにあります。その他に、屋台をもっと充実してほしいという声もいただいています。反響については、SNS 等で調べています。先日もヒューマンアカデミー札幌校という専門学校の方とお話した際に、江別でイベントをやりますと言ったところ、えべフェスですかと聞かれたことがあり、コスプレやアニメなどのコアな方にはかなり広がっていると感じています。江別市との協力関係については、江別市の方からお話を聞かせて欲しいと言われております。また、今後は EBRI などの施設も利用出来ればと思っています。

星：質問ではないのですが、1 年前にお話を伺った時に、伸びしろがすごくあると私自身感じました。一緒に活動をされている方が企業との連携で道筋を作って広告費や協賛金をいただいたことに対し、すごく努力されているということがとても伝わってきました。市民活動にとって資金繰りはとても大変なことだと思っています。これからの活動の中で、まず 1 つは、地域とのコミュニケーションをどのように取っていったらいいかは具体的には考えていないということですが、早めにコミュニケーションを取る事で、いろいろな所にアンテナが広がっていき、協力してくれる方もきっとたくさん出てくると思うので頑張ってください。もう 1 つは、えべつ協働ねっとわーくの協力もあってジモ×ガクの学生からスタッフが増えたという事ですが、これからも多方面にネットワークを取っていくということが重要になってくると思います。補助金を当てにするだけではなく、自分達で資金を集めた努力はとても伝わってきているのでこれからも頑張ってください。

阿部：1 点だけ、学校との関わりについて、具体的にやってみたい内容はあるのですか。

発表者：ヒューマンアカデミー札幌校様とは、連絡があった際に、私の方から学生の作品を江別で展示しませんかという話をしています。他の学校でも部活動をしている方にイベントで作品展示をしませんかという話をしています。

来場者：市外からの参加者がだいぶ増えたという話を聞きましたが、1,000 人を超えるイベントに成長された中で、江別や札幌圏に留まらない参加があったように思えるのですが、どのような所から来られたのかの分析はしているのでしょうか。それによって、今後もどのぐらいの規模まで成長するのかの目安にもなってくるのかなと思うので聞かせて欲しいです。

発表者：道内からは、札幌だけでなく、小樽や苫小牧、遠く北見からも来た方もいらっしゃいました。第 2 回の江別市コミュニティセンターで行った際には、アンケートを取っており、その際は東京から来たという方もいらっしゃいました。本当にコアな方はどこからでも江別に来ていただいていると認識しています。

来場者：このイベントには 3 回続けて参加したが、ホールのイベントと外のイベントのインターミッションを取ってもらって、そこの行き交いが出来るといいと思いました。あと私は初老の年齢に入っていますが、若い人だけが楽しめるイベントではないと思うので、積極的に年齢の高い世代の人も知ることが出来るよう広報すると良いと思います。

発表者：ホールと外とのインターミッションについては今後も検討させていただきます。コスプレしたい若い人だけではなく、コスプレを見に行きたいという方もいらっしゃいます。ちなみに、洞爺湖のイベントはそのコスプレを見に行きたいという方が増えていて、去年は 6 万人が来ています。今後は九州とも連携を取るそうなので、来場者は更に増えると思います。江別もそのような感じで、もっと来場者を増やすことができれば、道内に限らず道外からもお客さんに来ていただき、見ていただいて、飲食等、お金を落としていただくことにより、江別の経済が潤うのではないかと思っています。

②【江別越後会】
「2018 北海道命名 榎本武揚講演会」

発表者：江別越後会では、今回初めて市民を対象とした榎本武揚についての講演を開催させていただきました。おかげさまで、中身に感動して入会していただいた方も 1 人おり、大変ありがたい事業になりました。

榎本武揚の講演会は、2017 年 9 月 17 日日曜日、午後 2 時から野幌公民館会議室 3･4 号室で行いました。講師には新潟県出身、元 NHK 社会部記者で札幌在住の望田さんにお話をしていただきました。

主催は江別越後会、共催は江別市教育委員会郷土資料館、参加料は無料という形で進めさせていただきました。

事業の効果として、江別市民及び札幌市民、特に厚別区、中には当別の方も参加されていました

が、142 名の方に出席いただきアンケートも取らせていただきました。その方々から、榎本の人となりや生き様に感動し、共鳴された方がおられ、学校教育や郷土の歴史授業に取り入れてはどうかと、あるいは社会教育に活かすべきではないかとの意見が多くありました。更には榎本公園を活用して経済効果、特に観光分野で知名度を上げる方法はないのかという意見もありました。

事業の目的を達成出来たかについて、本講演に市外から来られた方もたくさんいると思うが、江別市工栄町にある榎本武揚を顕彰した「榎本公園」があると認識している江別市民の方々は、半分ぐらいしかいませんでした。敗軍の将である榎本武揚は特赦の後、特命全権公使を以って、千島・樺太交換条約に調印。外務大臣、逓信大臣、農商務省大臣、文部大臣などを歴任して、北海道だけではなく日本に多大な業績を遺し貢献したにもかかわらず、敗軍の将といわれているため、その評価が低いとの意見が多くありました。それを講演会で聞いて新たな認識をされ感銘してくれた市民が多かったです。

事業の継続性について、講演会は一過性でありましたが、講演会をまたやってほしいとの意見もありました。また、講演会の参加者で農地開放した土地を引き継いだ関係者も出席していました。今後に関して、榎本武揚に関して記述されている市販本数冊には残念ながら江別に関わった記述が全くなく、DVD や NHK での放映でも江別に触れていません。なぜなのか私なりに考えると、江別市民が発信していないからで、きちんと発信すれば作家がそれを見て記述してもらえるかもしれません。残念ながら江別市民が発信していないと、作家の先生もあまり情報を持っていないということで、あまり詳しく述べられないのです。事業の継続の中には、まだ知られていない事柄や、なぜ江別に 10 万坪を求めたのかということも、しっかり検証して江別から発信していきたいと考えています。

反省点として 142 名の参加に対して、200 人ぐらいが入る規模の会場がなかなか無く、収容人数が 100 名前後である講演会を行った研修室３，４号と大ホールの中間の大きさの部屋が無いことが残念なところで、入りきれず帰られた方もいたり、立ち見の方もおり、会場選びが反省だと思っています。もう 1 つは、音響が悪く、後ろの方が聞こえないという苦情があり、会場の問題は、今後考えなければならないテーマだと考えています。

全員では無いですが、アンケートの結果では来場者の年齢は 60 代、70 代の方が多いと感じています。この講演会を知ったきっかけは、広報や新聞が多かったです。
辛口の意見も色々ありましたが、「良かった。」「もう一回行きたい。」との意見もありました。

阿部：榎本武揚が実際に江別に住んだ記述もなく、また、いつ頃来たのかもわからないということで、確かに私達も興味はあっても多くの方に浸透していかないのではないかと思っています。もう少し手を尽くして調べていただきたいと思っています。そうすると非常に説得力も出るのではないかと思います。出来れば、これからも継続して地元の人のために講演する機会を増やしていただききたいのと、団体出前講座という形で出向いていただいて話をしてもらうとか、そのような方法をとることは出来ないでしょうか。江別としても榎本武揚のような人の名前が浸透していけば、市民に歴史に興味をもっていただけるのではないかと思っているのでよろしくお願いします。

発表者：江別でも榎本を顕彰した公園があり、また、10 万坪の農地を分配したという資料もあると参加者から聞いたので、それらを集めて江別から直接発信したいと思っています。また、学校教育

や社会教育の中でも資料はたくさんあると思うので、江別の部分を見つけていきたいと思います。出前講座は今回の講師が札幌から来ていただいており、費用が掛かっています。榎本武揚を講話できる方が江別にどれだけいるか把握はしていませんが、無料でもお話出来るという方がいたら、是非やりたいと考えています。

内田:報告の中のアンケート結果において、江別市民の 50%しか知らないという評価がありました。私自身は茨城県出身で、江別には働きに来ているという身でありますが、住んでいるだけとか、働く場所として江別であるという人が多いと思っていまして、その中で逆に 50%の方が知っているということは、江別市民の方は榎本武揚に関心を持っている方が多いのではないかとの印象を感じました。これから榎本と江別の関係を検証していく中で、どのような方々と協力関係を結ぶのか、また、どのような可能性があるのかを教えていただけますでしょうか。

発表者：今年は北海道開拓 150 年ということで、現在、北海道庁ではかなり北海道 150 年の検証をやっています。今回、142 名の方が聞いてくれて、関心を持っている方、またやってほしいという方も多くいらっしゃるので、勉強会や研究会を開催し、郷土資料館で、例えば、江別の人物像のパネル展をやるなど、小さなことをやるのは大事だと思っています。それには検証したときの資料、市販されているものを並べるだけではなく、江別の関わりのある資料を展示しながら市民に関心を持っていただけるように、江別市にも協力を仰ぎながらやっていきたいと思っています。

来場者：ほとんど予備知識なく講演会に行って話を聞きましたが、榎本武揚は NHK の大河ドラマにするべきだなと思いました。ぜひ NHK にそういう声を、実現する、しないに関わらず届けて欲しいと思いました。また、NHK の社会部記者の方はかなり詳しい方だったが、かなり高齢でもあり、本とは違った肉声でないと伝わらないものがあるので、こういう高齢の方の貴重な証言はぜひ記録をして、聞いてない人も聞けるようにすべきだと思いました。

発表者：大河ドラマの放送をしていただきたいという貴重な意見ありがとうございます。別な件で大河ドラマの話を NHK へ持っていった知り合いに聞きましたが、相当しっかりした資料を作って持っていかないと駄目だということ、また、全国からいろいろな要望があるらしく、それ相当の NHK への説得はもちろん、地元の熱意もないと非常に難しく、先程言ったように、地元がしっかりした研究、検証して、市民を盛り上げないといけません。一部の人だけが盛り上がっていても難しいと思います。記録はのっぽろ七丁目放送局さんの協力をいただき、講演資料はすべて録画、録音しているのであります。それを持って、映像でも見ていただくことは出来ると思います。

③【木製戦闘機キ 106 を語る会】
「木製戦闘機キ 106 パネル展」

発表者：パネル展を開催したのは平成 29 年 8 月 15 日から 20 日の間で、8 月 15 日の終戦記念日に照準を合わせて行ったことにより、非常に反響が大きかったです。パネル展は 10 時から 17 時まで野幌公民館のギャラリーで展示し、講演会は 19 日土曜日 14 時から研修室 5 号で行いました。基調講演会の講師の田中和夫さんは元々江別に住んでおり、今は札幌で作家活動をされていて、木製戦闘機の本を出された方でもあります。またトークショーとして女子挺身隊の方にもお話をいただく予定でしたが、残念ながらこの方は非常にご高齢で倶知安から来ていただくことが出来なかったため、木製戦闘機に関わった方に色々な証言をしていただき、大変有意義なトークショーになりました。

事業の効果については、この事業は終戦記念日に合わせた事業で、マスコミの反響は大きく、広く市民の関心も高いものになりました。NHK、TVH、道新、毎日、大手の報道機関にも取り上げていただきました。江別で木製戦闘機を造った事実を初めて知った市民は多く、また、製造に携わった関係者や親戚、兄弟の方も多数参加しており、懐かしく涙まで流された方もいらっしゃいました。

事業の目的が達成されたかについて、初めてのパネル展で、6 日間で 639 名の見学者が市内外から来られ、講演会には 102 名の参加者があり、活発な意見が交わされ、成功したと確信しております。戦争と平和について市民とともに考えることが出来た一週間であったと思います。

事業の継続性については、今回の為に作成し展示したパネルは全部で 47 枚あり、終了後、郷土資料館に寄贈しました。この貴重な資料は学校の授業や社会学習の場で活用してもらえたら、とても有意義な活用方法だと思います。パネル展にて市民から寄せられた要望として、1 つ目に地中に埋められていたトタン箱がサビで非常に劣化しており、なんとか防錆処理をして将来のために残して欲しいというのがありました。2 つ目に NHK 記者団からも言われましたが、見晴台に建つ標柱に史跡旧飛行場跡と書いてあるが、これだけではなんのことかよく分からないと、その横に説明板もあったほうがいいのではないかという意見がありました。3 つ目に新たな資料の発掘が難しくなっているので、関係者の存命中に肉声の録音を実地していくようにしてはどうかという意見もありました。

パネル展には江別市長も公務で忙しい中、わざわざ見に来ていただきました。

阿部：私自身も非常に興味を持っています。私の自治会の方から、江別の女学校に通っていた時に、飛行場の仕事をしたという話を聞いたことがあります。木を磨いたような話をしており、木製戦闘機キ 106 を語る会で、そういう方の証言を色々と取っていると思いますが、まだまだ他にも江別にはいると思います。皆さん 70 代後半以上になっており、早くしないと証言を取ることが非常に難しくなると思いますので、いろんな手を尽くして残して欲しいと思います。戦争と平和ということでの飛行場の話も大事ですが、政治的な問題や、戦争・平和ということに重点を置かれると支援事業の主旨としていかがかと思います。ただし、歴史としては大事なことだから、資料や語りを出来

るだけ残していただいて、多くの江別市民の方々に、特に子どもたちに江別にはこういう歴史があると、広めていただきたいと思っています。

発表者：戦争と言うと、嫌な辛い思い出とか、悲しい思い出とか、そういう思い出が沸き返ってくるものだが、私達が会を発足した意義に政治色は全くありません。何のために木製戦闘機を作ったのかが原点です。女子挺身隊や少年隊も含めて、軍事と協力しているのは、イメージとして非常に悪く、女子挺身隊は非常に過酷な労働をされているイメージがありますが、私達が知っている証言の中ではそんな話をされる方は全くいません。パネルを 47 枚作って、江別市郷土資料館に寄贈しましたが、それを早速江別第一小学校の社会の先生からお借りしたいという話があり、それを使って学校で授業されたと聞いています。他にも貸してほしいという団体があり、この事業で作ったパネルが社会授業や社会教育に役立っているのでないかとうれしく思います。

来場者：私は見晴台に 20 年程住んでいますが、興味関心を持ってない人は、見晴台にある飛行場の標柱は、冬になると除雪の邪魔だと言う人もいます。先程の榎本武揚さんのことも同じですが、江別では昔何があったのかを大人にも子どもにも聞いても何もありませんという答えがほとんどであり、非常に残念です。江別にはたくさん文化や芸術、歴史もあり、それをどうやって発信していくのかが非常に大きなテーマだと思います。やはり市民の意識をどうやって動かすかということがポイントで、このような努力されていることは本当に素晴らしいことだと思うので、あらゆる手立てを尽くして PR をしてもらって、江別は素晴らしい街、地域だと市民と一緒になって語れるようになればいいと思っています。

発表者：北海道開拓から 150 年しか経っていなく、ようやく 3 代目か 4 代目になり、先代の過去の苦労された方を考える、あるいは思い起こす、歴史を検証する時代に生まれてきたのだと思います。歴史をしっかりと検証して自慢していただいて、江別は素晴らしい街だと言っていただきたく、私ども含めて皆さんと頑張っていきたいと思っています。

④【メディネット江別】（連携先：江別観光ボランティアガイド）
「市民活動団体支援のための活動紹介ビデオ作成事業」

発表者：私達のテーマは市民活動団体支援のための活動紹介ビデオの作成事業で市民活動団体の支援のために進めています。まず、協働団体との連携ということで、江別観光ボランティアガイドさんとは普段から一緒に活動しているので活動内容を把握しており、この支援事業にも平成 25 年から一緒にやっています。また、多大な撮影データがあり、紹介ビデオが作りやすく、一緒に検討しながらやっています。映像データが江別紹介ということで非常に適しており、観光ボラ

ンティアガイドさんの応援を当団体は続けていきたく、今回も一緒にやってもらうことにしました。
　事業概要は活動団体の活動紹介の CM ビデオを作成しました。コマーシャルビデオとして特化して制作したものがなかったため、それを短く約 1 分間で作成しました。作成用データとしては現在の活動状況の撮影や、団体が保有しているビデオ、活動中の写真を活用しています。ナレーションはなかなか得意な方がいなかったため、かんたん AITalk というフリーソフトを使用し音声を作りました。制作した CM は、この市民活動センターにモニターを設置し、来訪者向けに上映し、宣伝していただいています。また、メディネットのホームページにも掲載して PR しています。
　本年度、CM ビデオを作成した団体は 4 団体で、江別観光ボランティアガイドさん、あおむし人形劇団さん、子育て支援ワーカーズきらきらさん、そしてまちの灯さんです。
　自己評価は、市民活動団体の活動はなかなか皆さんに浸透しにくいため、一般の方に広く知らしめ、団体の活動状況の認知度・理解度の向上を図ることが可能になったと感じており、今後も市民活動センターのロビーで放映していただき、同時に市民活動センター・あいへの関心度の向上も図ることもできたらと思います。そして、私どものホームページの公開により、江別の情報を全国に知らせる効果もあります。それから、観光ボランティアガイドさんが様々なところで、パワーポイントを使用してガイドをするときには、最初にこの映像を流していただけるといいと考えています。事業の継続性、今後の進め方としては NPO 法人あじさい亭さんのコマーシャル作成を予定しており、今後も CM の作成を継続していきます。コラボのたねという市民活動団体情報サイトがあり、そこから 8 団体程度を 2 年間、年間に 3、4 団体やっていきたいと考えています。しかし、これで終わりということではなく、支援事業は 3 年だが、これが終わった後も市民活動センターあいとのコラボとして、CM 作成をコラボのたねの中からピックアップして継続していきたいと考えています。

星：今回は観光ボランティアさんのビデオ撮影だったが、来年度、次の違う団体を撮影対象としたときに、今までのつながりを大事にしていくことも含め、観光ボランティアガイドとのつながりをどのように継続していくか教えて下さい。

発表者：観光ボランティアガイドさんとはこの支援事業以前からやってきているので、このコマーシャルを作成するためだけに一緒に活動しているわけではなく、これからも一緒に活動していくつもりです。

星：メディネット江別さんが色々な活動団体を盛り上げ、宣伝していくという活動は、市民活動団体同士の繋がりが広がっていくことにもなるので応援していきたいと思います。頑張って下さい。

来場者：このような映像資料は、色々な活用が考えられるが、その際にライセンス認証の問題があると思います。著作物についてのライセンスはどうなっているのでしょうか。例えば、室蘭市のオープンデータだとクリエイティブ・コモンズのライセンス認証を採用しているが、そういうものを明確にされると気持ちよく利用できるのではないか。

発表者：ビデオをつくる際に非常に気をつけていることがライセンスで、例えば音楽等はすぐ YouTube に撥ねられるのを防ぐために有料の音楽やフリーの利用可能な音楽を使用しています。一番困ったことは、スノーフェスティバルで音楽を流しているが、一般的に YouTube に流すとアウト

なので、私どもが撮ったものの音楽を一度消し、フリーの利用可能でよく似たリズムの音楽を流すかたちをとるなど工夫しています。そして、顔が写っていることについて、例えば市民会館の自主事業で撮る場合は、これはビデオに映し、ホームページに載せることがあると了解を得た上で行っています。この 2 つは必ず抑えて撮影しています。そして、観光ボランティアガイドさんの活動を撮るときには、お客様に後ろの方から撮ると伝えて撮影しているので問題ないと考えています。

⑤【フォーラム野幌の森】（連携先：（財）日本野鳥の会　江別支部）
「未来に残そう野幌原始林」

発表者：フォーラム野幌の森の講演会は今年で 13 回目になり、森林総合研究所の八巻一成さんに講師として来ていただき、森林との共生へ向けて、市民と行政との協働はどうあるべきかということで講演をしていただきました。また、野鳥の会の松山さんにも講演もお願いをして行いました。この日は、選挙と江別市の健康都市宣言の一大イベントにぶつかってしまったこともあり、参加者が少なく、35 名となりました。八巻さんも言っていましたが、今は管理署だけが勝手に進める時代ではなく、市民と協働するということが非常に大事だということです。特に開拓者が森を大事にされ、森を分轄、払い下げすることを関矢孫左衛門さんを中心とした方々が止めたおかげで森が残り、今では森林公園は市民の森になってきています。市民の利用者が多くなりましたが、とても貴重な森のため、今後もぜひ残しておきたいと考えています。

これまで 3 年間、支援事業の助成を受け、マナーパンフレットの制作、配布をしてきました。今後も色々な課題が出てくると思うので、継続的に取り組んでいきたいと考えています。

今年は道立自然公園指定 50 年、北海道の命名 150 年の年でもあります。指定 50 年を記念して私どもとしては様々なイベントを提案しているところです。今年はそういったイベントを一生懸命やっていきたいと考えています。町村金五さんが北海道 100 年記念事業で道立自然公園に指定した時に、車を通さない無車道地区を指定しました。しかし、江別市道が通っているため、止めたいと考えているが実現していないので、これを 50 周年で何とかしたいと考えています。

（野鳥の会）今回の事業は自然保護の啓蒙普及活動として協力させていただいています。3 年連続協力させていただき、それなりの成果を上げられたと考えています。今私どもも活動の中心は野幌森林公園だが、ここの自然環境は生物多様性という面からも非常に高く評価されており、認知度が高くなってきていると考えており、それと同時に保全と利用、保全と同定義のワイズユースという賢い利用の面から見ると、現状はオーバーユースという利用されすぎている面が大きいことが顕著になっています。特にクマゲラやフクロウ、カワセミ、最近ではモモンガが頻繁に現れ、それを狙ってカメラマンが数十人押し寄せる状況もありました。今後はオーバーユースの部分を何とか利用調整すること、入場制限や入場料金を念頭に置いた形の利用のあり方を考えていかないと、保全保護も出来ないのでないかと考えています。そのようなことを考えつつ今後も活動を続けていきた

いと考えています。

阿部：野幌森林公園は江別市としては大きな財産であり、自然保護という立場から活動されていることに嬉しく思っています。江別市、北広島市、そして札幌市厚別区の 3 地区からそれぞれ多くの方が散策しているイベントなどもあります。ある程度森林公園に人が入るような構図も必要であり、かといってあまり入られると森が荒らされてしまうので、その兼ね合いは大変だと思うが、そこは皆さん方の力を持って調整していただきたいと思います。児童がどんどん減少している中で、野幌小学校では、2 年ぐらい前から児童が増えており、自然の森と触れ合える環境にあるので、皆さん方の力をお借りして森を育てていきたいというような雰囲気作りに協力していただけたらと思います。

内田：今年が 3 年目で、基本的にマナーパンフレットと講演会と言う形で活動と報告をされてきたと思いますが、パンフレットをどのような形で利用したのでしょうか。選考会では小学校への配布や、啓蒙をより広げて次の時代を担う世代に広げる計画を立てていましたが、その成果はどうなったのでしょうか。そして、野幌小学校などを中心として、次の時代を担う人たちの自然に対する啓蒙という計画もあったと思いますが、その実施状況はどうなっているのでしょうか。また、今年度で補助が終了しますが、パンフレットや講演事業は今後どうなるのか、見通しについてお話をお聞かせ下さい。

発表者：パンフレットの問題は、教育委員会とタイアップしたらどうかというご意見がありましたので教育委員会に持っていき、各学校に配布していただきました。何かあれば説明や連絡、打ち合わせをしたいと話をしましたが、反応はありませんでした。今後も学校とは活動を広げるような話をしていきたいと思っております。150 周年についてまだ、自然保護協会と打合せ中ですが、野幌小学校を巻き込んでやりたいと考えているので、何か良い話があればぜひ知恵や力をお願いしたい。

来場者：私も森林公園は宝だと思っており、使わせてもらっているが、実態は保全する上で非常に厳しくなっていると思います。原始林の中の入ってはいけないところに入っている人がおり、夏には、入っては行けないところに入って石をぶつけてフクロウを動かしカメラで撮るという人もいます。そういう人に声を掛けるとこちらが危ない場合もあるので、皆様の苦労がよく分かります。今後も頑張って下さい。

⑥【子育て支援ワーカーズ・きらきら】（連携先：新栄自治会）
「地域サロン　e-たいむ（ebetsu eat enjoy)」

発表者：本事業の開催場所は新栄会館です。実施日は毎月第 3 水曜日で時間は 10 時 30 分から 13 時までです。広報は毎週行っている親子ひろばの方への案内と新栄団地に住む皆様を対象にＰＲと、団地に住む方からの提案で、各団地の出入り口掲示板にチラシを貼らせてもらいました。

その他に今回は、江別全域での参加を拡大するため、広報えべつへの掲載、公民館、集会所などでのポスター掲示、きらきらフェイスブックからのお知らせ、新栄会館近隣へのチラシ配布 700 枚、親子ひろばにもチラシを配布、開催時にのぼり旗を掲げる等を実施しました。

開催日には玄関前に毎週月曜日の親子ひろばのきらきら旗とサロン旗の 2 本でアピールしました。のぼり旗を掲げることによって、何かやっているという事を知ってもらえ、団地の方が利用しているデイサービスのスタッフの目にもとまり、見学に来てもらえたりと効果を感じました。

本年度これまで 10 回開催で 94 名、18 組の親子の参加です。残りはあと 2 回となっています。

参加者の声として、楽しい時間が過ごせて、張り合いになるなど好意的な意見をいただきました。

拡大イベントとして、9 月 23 日に行った「e-たいむまつり」には 37 人、21 組の参加がありました。団地会館ならではの調理場を活かしておいしい食事の提供と共に子どもコーナーでじっくりと遊んでいただけました。こちらも参加者からは良い試みだという感想をいただいております。

事業の継続と今後についてですが、何とか開催回数を増やせるよう、土台作りをするという 1 年ということでスタートしました。

まだまだ定着とはいかないまでも、サロン参加がきっかけで折り紙をするために集まったり、自分達だけだと出来ない事も若い人が参加する事で一緒に行う楽しみがあり、生きがいになるなど団地の方にうれしいお言葉をいただきました。

来年度はサロンの中に、お楽しみ時間として江別市の出前講座を盛り込んだり、親御さんには手作り小物の提供を始めたいと検討しております。

子育てしながら息抜きできるお手伝いとなるよう、たくさんの親子の参加を目指します。地域の方々の参加で一緒に関わり、作り上げていくサロンに成長させたいと思っております。

早めにスケジュールを作成し、声かけ出来るように考えております。

私達はきっかけを作ったに過ぎず、参加する方一人一人が作り上げていくような雰囲気にしたいと、顔が見える関係を作り、子育て世代と縁のない人を繋ぎ、地域の活性化となるよう願い、来年度も継続していきたいと思います。

きらきらと新栄自治会の方々と親睦を深める餅つきなども行い、この事業を通して距離がぐっと縮まりました。

阿部：子どもから高齢者に至るまで多世代に渡る参加者があり、私も興味を持ちました。新栄団地はまだこれから 2 棟建つ予定で、高齢者の方も増えていくと思います。高齢者クラブでは、これか

らの時代はお互いに支え合わなければならない時代に入るという事で、私達もふれあいサロンを 6 箇所行っていますが、この事例は参考にしたいと思いました。今後、新栄団地以外の場所に広げていく可能性はあるのかを聞かせてもらえますでしょうか。

発表者：広げたいとは思っておりますが、現状では費用の面で難しいところがあると思っています。選考会の時に自治会から費用負担をしてもらえないかという提案もありましたが、私達から自治会にお願いする事は出来ず、その代わり会場費を無料にしてもらっています。サロンに必要な道具などはこの助成金でまかなえていますが、3 年の支援事業が終わった時に課題として出てきます。ここでやってほしいという要望があれば検討する事は出来ます。

星：新栄自治会側では誰もが参加出来る地域サロンで、会館での活動の活性化が出来、若い人と一緒に活動する事により活気があって楽しいとの自己評価が書かれていましが、この地域との協働、3 世代交流はまさに協働のまちづくりと感じました。資金や労力の問題は大変だと思いますが、江別には子育ての市民活動をしている団体もたくさんありますので、交流を持ちながら、他団体とも協働する事で広げていく活動に繋げて欲しいです。

阿部：私は共同募金の会長も務めているのですが、共同募金の助成申請をしてみてはいかがでしょうか。この内容であれば助成を受けることも可能だと思います。

発表者：やってみたいと思います。

来場者：中学生、高校生などが来る事が出来る時間帯や曜日に開催する事は可能ですか。

発表者：他イベントのおもちゃフォーラム等は、学生にも参加してもらっています。開催日が祝日の時は学生の参加も可能だと思うので声かけしていきます。

⑦【江別創造舎】
「江別の文化・歴史を語る！つなぐ！語り部の記録 2017」

発表者：昨年度は出張し、現地にてインタビューを行い映像化し、成果発表ということで市民の方々を交えて発表の場をひらきましたが、今回は初めての試みで、野幌公民館の視聴覚室をお借りし、11 月 11 日に市民の方を交えたところで直接お話をしていただいたものを後で編集し、映像に残しました。

今年度に関しては 3 名の方、1 人目の講話は野幌太々神楽伝承会の佐藤様から後世につなぐための普段されている育成活動、発表の場に関してお話をいた

だきました。
　2 人目の講話では江別屯田兵村遺族会会長の田村様から、江別に屯田兵が入植した背景から話が始まり、その後屯田兵は解散になるが、その方々が残した資産、そういうものが江別に社会貢献という形で引き継がれていく歴史的な話をしていただきました。
　3 人目の講話では江別消費者協会顧問の辻様から、今では消費者協会は誰もが知っている団体だが、出来た当時は認知されていない中で活動していた背景についてお話をいただきました。これらの講話はそれぞれを 3 枚の DVD にまとめております。
　この効果と継続性に関して、DVD を作るというのは、ツールを作る目的なので、今後、情報図書館や道立図書館、それから市民の方に見える場所に設置していき、今後もカルタ同様にいろいろな機会があるごとに市民の方々に見せたり、お話をさせていただければと考えています。

内田：この事業の目的が協働のまちづくりで、協働する範囲や人達と連携を広げたいということが目的と事業の目標になっているものです。この後報告される、のっぽろ七丁目放送局さんも同じだが、今回は太々神楽の伝承という点では同じ事業内容で重なっており、昨年までは連携して行っていたものが今回は別々になっている点について、連携と協働のまちづくりの視点ではどうかと考えています。少なくとも取材対象の調整等は出来なかったのか、自己評価票や支援事業報告書の中のコメントは承知していますが、もう一度説明をお願いします。

発表者：江別創造者のコンセプトは個が生き、個が生かされるまちづくり、そして街が生き、街が生かされるひとづくりになっています。今のご質問は、色々な過去と現在、未来を深掘りしすぎた質問だと思います。私達はすべて協働で、野幌太々神楽、今年で 140 年を迎える江別村の入村、消費者協会、それぞれに資産の共有をしています。今後、これをどのように活用していくかが協働で、産学連携、産学民、公民連携も活動になると考えています。そのため今のご質問については協働の考え方が違うと感じています。また、のっぽろ七丁目放送局が神楽を取り上げたことについて、おそらく私達が神楽をやることも存じないだろうし、これは偶然だと考えています。これだけの文化、歴史に深い江別で、どの題材を取るかについて重複しても仕方ないと思うし、それぞれの視点で色々なものづくりが行われていると思います。今までの発表で出されたものは、全て江別カルタに反映されている題材ばかりです。のっぽろ七丁目放送局さんは技術力がとてもあり、過去の業績もある、そういった視点で作るものと、江別創造舎で作るもの、その他の方が講演会でやられるもの等、多角的な形で江別の文化、歴史を扱っていくことが広報的に周知させる意味ではとても良いアイディアではないかと考えています。

⑧【のっぽろ七丁目放送局】（連携先：江別越後会）
「生きた江別の歴史を残す」

発表者：本事業は、東西野幌を開拓し発展させてきた「北越殖民社」の長老と、江別市の無形文化財に指定されている「野幌太々神楽」の存続に貢献している「野幌太々神楽伝承会」を取材し、生の声を記録、DVD に残し、次の世代の人たちへつなげる事業です。

昨年「江別創造舎」と協働制作した「語り部の記録 2016」を引き継ぐ内容となっています。本事業の一人目の佐々木巌さんは伝承会の発足当時より会を支え続け、神楽奏楽伶人（太鼓奏者）として、また数々の装置・装具を製作するなど、伝承会には欠かせない存在でした。一昨年退会したその佐々木さんを 10 月から 11 月にかけ取材しました。野幌公民館で行われた「野幌の舞」も記録し、今までの映像も含め、伝承会を支えてきた佐々木さんを表現する素材が揃ったので、現在編集中です。

北越殖民社の長老の取材は現在江別越後会会員の方と調整中で、2 月下旬の取材を予定しています。完成は 3 月 20 日の予定です。

昨年制作した DVD も大変評価が高く、今回も内容の充実した記録が出来上がることを確信しています。

阿部：北越殖民社を含めて歴史を残すこと、太々神楽の話を伺ったりすることは大事な活動だと考えています。しかし、私としては江別越後会や江別創造舎、のっぽろ七丁目放送局、それぞれがばらばらに活動しているように見えるので、活動内容が違うにしても連携を取っていてもおかしくないという印象を受けています。これから色々と活動範囲が変わっていくと思いますが、今後の活動を含めて何かあれば聞かせて下さい。

発表者：先程、江別創造舎さんからコメントがあったとおり、私どものほうも太々神楽伝承会の取材に関しては江別越後会さんと協働して進めた形になっていますが、切り口を変えて発表することによってこういう側面もあると見ていただける効果もあるのではないかと考えています。偶然同じものを取材したという形にはなっていますが、江別創造舎さんの動画も拝見し、違った見方、捉え方も含めて、多方面から見ていただけるとありがたいです。

内田：協働のまちづくりの視点として、個性を活かした上で協働する可能性もあると思うが、江別創造舎さんと協働してやってこられた歴史もあるので、基本的に同じ事業の内容でやる時は、個性的にやりつつ情報発信や市民の方にどう広げるのかという点で、協働して行うことで、それぞれが別々にやっているとは違う江別全体での効果や、協働していることで江別そのものの価値が上がる可能性はあるのではないかと考えています。江別創造舎さんと同じく、江別の歴史やそれをつくってきた先人たちの大事な歴史を残していく事業として様々な団体とこれからも組まなければならないかと思います。その点で、自分たちは自分たちではなく協働の可能性を追求して進めていただきたい。今回、報告会に来ていただいたのは制作に関わっている方ではないということなので、そ

ういうコメンテーターの希望があったということだけお伝えして下さい。

発表者：いただいたご意見は制作の方にしっかりと連絡させていただきます。

⑨【生活クラブ江別】（連携先：江別子どもの未来を考える会）
「子どもの「遊び」の現状を考えよう！！わくわく「プレーパーク」って！？」

発表者：私達の取り組んだテーマは、「子どもたちの「遊び」の現状を考えよう！！わくわく「プレーパーク」って！？」で、子どもの遊びについてプレーパークを江別市内でも実施したいということで、計画を立てて活動に取り組みました。

今年度は、初めての活動ということで、まず、現状の子どもたちの遊びの環境はどうなっているのか、広く市民の皆さんと共有したいということで、それに関しての広報や、講演会活動を行いました。

最初に、いただいた補助金を含めた予算の中で、普段は出来ないきちんとしたチラシを作りたいと思い、カラーチラシを 3,000 枚作りました。

札幌市は市が協力して進めている先進地であることから、札幌市の緑化協会から講師を呼んで講演会を行うことと、講演会の他に映画の上映を予定していました。しかし、映画会社と急に連絡が取れなくなるハプニングがあり、映画の上映が出来なかったため、チラシには急遽、講演会のみの記載とし、メンバーの小学校での配布、幼稚園での配布、近隣へのチラシまきなどで一生懸命 3,000 枚全てを配布しました。

その他にも、普段は出来ていなかった、江別市の広報にも載せさせていただいて、普段の活動よりも多くの方にお知らせする事が出来たと実感しています。

講演は予定通り 2 日間開催しました。

子育て中のお母さんや働いている方も来られるように、10 月 21 日の土曜日の開催と、24 日の火曜日は託児所を設けました。

参加者は、21 日土曜日は 18 名の参加、24 日の火曜日は 17 名の参加があり、参加年齢層も、子育て世代から、人生の大先輩など幅広い年代の方に参加していただく事が出来ました。

講演会は、ただプレーパークの良さを知らせるのではなく、ワークショップ型にして、どんな遊びをしたか、何が楽しかったか等、グループで共有しました。その結果、「遊びの空間がない」「時間がない」「仲間がいない」の「3 間（サンマ）」がないという話になりました。

この会に参加した方は、これからの事を一緒に考えてもらうために、子どもの遊びと、大人の役割を考える「おひさまカフェ」というカフェを開催し、7 名の方に参加頂きました。

2 回目には 10 名の参加があり、今後の活動について一緒に考えていただける新しい仲間が出来ました。

実際のプレーパークを見学する取り組みも 4 回行い、延べ 39 名が参加してくれました。大人だ

けではなく、子供たちを連れていく取り組みも行いました。
　それと同時進行して、市にも江別子どもの未来を考える会での要望という形で、副市長にお会いし、「来年度は実際にプレーパーク開催を考えていますので、ぜひ場所の提供などご協力いただければ助かります。」というようなお話をさせていただきました。
　反省点としては、上映を決めていた映画が上映出来なかったこと。
　成果としては、とにかく広く市民に参加を呼び掛けることが出来たこと、それからプレーパークの開催にむけて、新たな仲間が出来たことになります。

星：これから、この活動を広げていく中で、それぞれの役割分担を上手く決めていったり、副市長からお話をいただくということもやっているということで積極的に動いていると感じました。わくわくし、応援したい気持ちでいっぱいです。いろいろな団体とコミュニケーションを取りながら、ぜひ活動の幅を広げて頑張って下さい。

阿部：素晴らしい活動をしていて大変うれしく思っております。様々な団体や行政と連絡を密に取り合っていければ、まだまだ幅広い活動ができると思いますので期待しています。

来場者：私も 2 回目にお邪魔させていただきました。子供の現状というのは話された通りだと思います。遊びに行く場所がない、仲間も一緒にいない、ほとんどは単独で家でゲームをやっています。子供たちの基本的欲求としてある「遊びたい」という意欲を沸かせるのが大人の仕事だと思います。わざわざ遠いところまで行くのは大変ですが、場所がないので行かざるを得ないのだと思うのです。大変素晴らしいことをされていますので、難しい事ですが、どうぞ挫折しないで努力してください。

発表者：今のお言葉の中にポイントがありまして、遠くではやはり意味がなくて、子供たちがランドセルを投げてすぐに行ける近所にたくさんあることが大事だと私達も思っていますので、最初はイベント的であっても、来た人が「良い」と言って、たくさんの場所で開催出来るようにする事がゴールだと思っています。

＜コメンテーター総評＞

【星　優子　氏】

私も市民活動をしている身です。いろいろな団体と協力し楽しくやっていきたいと思い活動していますが、一番大事なのは、それぞれの立場は違ってもコミュニケーションを取っていくことではないかと思っております。目指している先が一緒であれば何かしらの協力が出来ると思います。

協働は難しい事ではありますが、常にアンテナを広げて協力して楽しく活動をしていってもらえればと思います。

【阿部　実　氏】

自治会・高齢者クラブの立場としても参考になる報告がいっぱいあり、私達もいろいろな連携が出来ると思いました。子どもから高齢者まで、皆が安心して暮らせるまちづくりにしていってもらいたいと思います。

【内田　司　氏】

多くの市民の方々が様々な分野での活動をされています。私達の願いは、市民の方々がいきいきと、現代社会は孤立社会で無縁社会化するような時代の中で、人々が支え合ったり、協力し合ったり、協働し合ったり、市民活動の中でそれを豊かに出来る、それが江別の社会であってほしい、その中核を皆様が担われている、しかもいろいろな分野で、いろいろな年齢層を対象にしながら活動されているという事を今回も感じさせていただきました。とりわけ、若い人が活躍でき、協力し合えるようなまちづくりをこれからも活動を広げていってもらいたいと思っています。

うれしい悲鳴ですが、この事業への応募も年々増えており、予算に限りがある以上皆さんのご希望に添えない状況であり、何とか出来ないかという思いがあり、課題であると私達コメンテーターも、主催する江別市も思っているのではないでしょうか。

これからも市民が活躍して作る地域としてブランド化していくような形になるようお力添えをいただきたいと思います。